

科研費ニュース

令和元年（2019）度、東京未来大学の科研費採択状況は以下の通りです。

	令和元年度		備考
	件数	金額（円）	金額は直接経費
基盤研究（B）	1件	2,100,000	平成28年度より継続
基盤研究（C）	6件	4,400,000	新規2件、平成29年度以降継続分4件
若手研究	3件	1,500,000	平成30年度より継続
若手研究（B）	1件	600,000	平成29年度より継続
挑戦的研究（萌芽）	1件	1,900,000	平成30年度より継続
研究活動スタート支援	1件	1,100,000	平成30年度より継続
合計	13件	11,600,000	

〈科研費採択テーマ一覧〉 ※新規2件については*を付す。

基盤研究（B）

所澤 潤「異文化対応能力育成教育と外国人児童の就学促進—先進諸国の多文化的教室の現場から—」

基盤研究（C）

- * 鈴木哲也「学校における動物飼育の歴史的・倫理的・法的課題と展望」
- * 横地早和子「芸術創作プロセスにおけるずらしと省察の関係からみる創造的な熟達過程の解明」
- 山崎善弘「姫路藩領における綿業の展開と領主権力・地域社会」
- 藤後悦子「発達に課題がある子どもへのチームスポーツ指導プログラムの開発とその評価」
- 鈴木公啓「歩きスマホ防止を目指した歩行時の頭部角度と心理状態に関する研究」
- 平部正樹「通信制高等学校生徒のQOL向上のための総合的支援に向けた調査研究」

若手研究

- 泉 秀生「幼児の生活時間に与える保護者の意識と知恵に関する研究」
- 森 薫「子どもの音楽学習における替えうたの創出・共有とその意味について」
- 埴田健司「風評被害の維持・抑止に関わる心的メカニズムの検討」

若手研究（B）

西村実穂「事業所内保育所における防災に関する研究—災害時行動計画モデルの検証—」

挑戦的研究（萌芽）

日向野智子「潜在保育士の保育士就労促進に対する職場の人間関係と社会的スキルトレーニングの効果」

研究活動スタート支援

野中俊介「ひきこもりの改善を目指した家族支援における認知行動療法的プロセス変数の包括的検討」

研究紹介（科研）

東京未来大学の先生方の研究について、インタビュー形式でご紹介いたします。今回は2人の先生にお話を伺いました。まず、科学研究費の基盤研究(C)に採択された鈴木哲也先生です。

Q1 鈴木先生、採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。

研究テーマは「学校における動物飼育の歴史的・倫理的・法的課題と展望」です。主に小学校で飼育されている学校飼育動物がなぜ学校で飼育されているのかについて歴史的に探ること、子どもの倫理形成との関わり及び動物の飼育方法や飼育環境の倫理的課題及び動物の扱いに関する大衆倫理の問題、動物飼育における法的課題と法的支援の展望などを計画しています。



研究費の主な使い道は資料収集です。特に歴史的資料に関しては「宝探し」ですので、資料がありそうなところに何日か滞在し、時には窓もない倉庫で猛暑の中、記録がありそうな資料をひたすら確認する作業を行っています。

Q2 研究計画調書作成にあたってご苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。

正直に言いますと、今回の研究計画調書は昨年度作成の時期に多くの業務を抱えていたため集中した時間の確保が難しく、前の年度を手直ししただけで、実際に使えた時間は数時間でした。本当は8月、9月を使って、じっくりと先行研究を集めて、作成したほうが絶対いいですね。

アドバイスとしては、前年度の研究計画調書がAやBの評価が多い場合、その部分を主に修正するとうまくいくかもしれません。また一つでも自分でしかできないことをアピールするとよいのかもしれません。

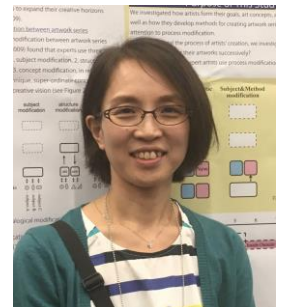
Q3 研究の進捗はいかがですか？ また今後の展望についてお聞かせ下さい。

現在、戦前の学校飼育動物の歴史に関しては一連の流れは構築し、今後は主に戦後の学校飼育動物の歴史を調査中です。あわせて生命倫理学や環境倫理学等は既習済みですが、法令違反ではないとしても学校で動物虐待とされる大衆倫理の分析をしていきたいと思います。また少し先になりますが、学校飼育動物を獣医師（獣医学的視点）と行政書士や弁護士（法的な視点）から支えるシステムを検討していければと考えています。

続いて、科学研究費の基盤研究(C)に採択された横地早和子先生のお話です。

Q1 横地先生、採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。

研究課題の大枠は、これまでとり組んできた芸術創作活動の解明の一環として、特に今回は創作プロセスにおける認知的な「ずらし」と「省察」に焦点を当てることをテーマにしています。創造性の心理学は、「拡散的思考」が創造活動に関与しているとしてきましたが、それ以外にもずらしなど様々な認知活動が創造活動に関与していることが明らかになっています。それらが美術家の創作活動においてどのように用いられているのかや、熟達過程においてどのように変化するのかといったことを、心理実験を通じて検証する計画です。



Q2 研究計画調書作成にあたってご苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。

単独で行う研究ですので、実施可能で無理のない研究計画・予算案になるよう、年次計画を立てました。新たな実験課題の準備に際しては、美術家の協力を得ながら考案することなど、実際に「なるほど、出来そうだ」と思える計画書になるよう配慮しました。前回の科研（若手B）も単独でどの程度の予算範囲が自分の研究として妥当なのかの感覚も分かりましたので、そこも欲張りませんでした。これまで実施した研究との連続性が明確で、今後の展開としても必然性の高い研究であると自分でも思っていますので、正直に書くことが来たと思います。

Q3 研究の進捗はいかがですか？ また今後の展望についてお聞かせ下さい。

前回科研（若手B）が終了してから、1年、間を空けて新たな科研（基盤C）が採択されたのは非常に幸運だったと思っています。短期間で成果を出すことが困難な研究を続けてきましたが、これからはもう少し生産的な仕事になるよう頑張っていきたいと思っています。

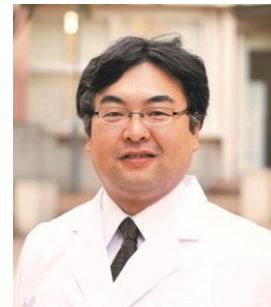
研究紹介（科研以外の外部資金）

科研費以外でも、民間財団から助成を受けた研究が行われています。本年度、どのような研究費を得て研究が行われているのかを紹介します。

研究代表者：鈴木哲也

研究課題：自然や科学への興味を促す理科実験の考案と実施

助成団体：公益財団法人東京応化科学技術振興財団



Q1 研究の出発点となった着想と、なぜ、科研費でなく、この研究費を申請したのか、お教えてください。

理科や生活の新規教材開発（コツを伝える映像化を含む）とその試行のために毎年度科研費以外からいただいています（当然審査はあるのですが）。科研費でも「研究者は、申請できるものは申請して研究をすすめることが院生時代からあたり前のように教わっていましたし、まわりもそうしていました。当然、私の先生もさまざまな財団から研究助成金をいただいて、その研究のお手伝いもしていましたね。

Q2 現在、どのように研究を進められていますか？フィールドにしている場所や、利用している施設、調査地など、研究に差し障りのない範囲でお教え下さい。

今回は那須の「の葉化石園」から頂いた化石の原石を用い、化石の発見体験及び化石の分類、保存の作業を動画化するとともに、実験教室を開催する予定です。多くの場合、化石関係の教室では化石を掘り出して終わりになってしまいますので、その化石が「科学」としてどのように扱われるのかについても考察できる実験教室を企画したいと思っています。

Q3 今後の展望や成果発表計画などについてお教えてください。

研究である以上、教材そのものの新規性を第一に考えていますが、今回の場合もそうですが、化石の実験教室自体は新しいものではありませんので、自然への興味と科学することの芽生えを想起する実験教室のカリキュラム構成、動画の作成をしていきたいと思います。あわせて、この分野に興味をもった子ども達が将来どうすればその分野の職業につけるのかといったキャリア教育の視点も同時にいれていけたらと思っています。

研究代表者：篠原俊明

研究課題：朝活動における運動遊びの導入が児童の身体活動量および運動習慣に及ぼす影響

助成団体：公益財団法人笹川スポーツ財団



Q1 研究の出発点となった着想と、なぜ、科研費でなく、この研究費を申請したのか、お教えてください。

国内外を問わず、子どもの体力向上のためには1日60分以上の身体活動が必要とされています。児童が1日の大半を過ごす小学校にて授業以外の時間に運動遊びを導入することで身体活動量の確保に繋がるのではないかと考え申請しました。また、1年程度の期間での研究実施を予定していたため、この研究助成に申請しました。

Q2 現在、どのように研究を進められていますか？フィールドにしている場所や、利用している施設、調査地など、研究に差し障りのない範囲でお教え下さい。

東京都内の同一区内の小学校2校から研究協力をいただき調査を実施しています。現在までに介入前の身体活動量と運動習慣の調査を終え、運動遊びを導入している最中です。今後は、介入後に同様の調査を行うことを予定しています。

Q3 今後の展望や成果発表計画などについてお教えてください。

介入前の調査はベースラインのものとなりますが、校内身体活動量と運動習慣との関係についての実態を把握することができたので、9月に学会にて発表する予定です。介入後のデータが得られた後、介入前後および2校間での比較を行っていきます。研究協力校に報告するとともに、学会発表や論文投稿をしていこうと思っています。

研究代表者：小林久美

研究課題：身近な家庭生活のなかにある科学実験の実施

助成団体：公益財団法人東京応化科学技術振興財団



Q1 研究の出発点となった着想と、なぜ、科研費でなく、この研究費を申請したのか、お教えてください。

家庭科は科学的な視点がたくさん含まれている教科です。被服実習や調理実習など実習のイメージが強いのですが、実験的な内容もたくさんあります。子どもたちにとって身近な生活に関する実験は、科学の入口としては馴染みやすいと考えました。以前からこの財団の助成を受けている先生から進められて、応募することにしました。

Q2 現在、どのように研究を進められていますか？フィールドにしている場所や、利用している施設、調査地など、研究に差し障りのない範囲でお教え下さい。

子どもを対象とした実験イベントなので、本学の調理室や理科室などの施設を予定しています。本学調理室では、既にカップケーキの材料（油）を変えた食味の実験を実施しました。

Q3 今後の展望や成果発表計画などについてお教えてください。

年間に数回の実験イベントを開催する予定です。これからは、こども保育・教育演習の活動として、学生と一緒に実験を作る事が出来たら学生の学びにも繋がると考えています。成果の発表は、公益財団法人東京応化科学技術振興財団が開催する報告会でポスター発表いたします。

研究代表者：西村実穂

助成団体：一般社団法人日本社会福祉マネジメント学会

研究課題：事業所内保育所における災害発生時の応急保育実施体制のあり方



Q1 研究の出発点となった着想と、なぜ、科研費でなく、この研究費を申請したのか、お教えてください。

私自身、もともとは、事業所内保育所の一つである院内保育所を対象として、災害発生前の備えに関する研究を科研費を受けて行なってきました。保育所における災害への対応は、災害発生前の備えと災害発生後の保育に大別できます。最近特に重要性を感じているが、災害発生後から通常の保育に戻るまでの「応急保育」です。研究をするなかで院内保育所だけでなく、事業所内保育所は認可保育所に比べて災害発生直後から応急保育を実施する可能性が高いことに気づき、科研費のテーマからは外れてしまうけれど、事業所内保育所を対象とした研究をしたいと思っていました。助成を受けている社会福祉マネジメント学会は、事業所内保育団体連合会が母体となる学会であり、事業所内保育に関する研究への助成をしていたため、テーマに合うと思い本研究費の申請を行いました。

Q2 現在、どのように研究を進められていますか？フィールドにしている場所や、利用している施設、調査地など、研究に差し障りのない範囲でお教え下さい。

事業所内保育所に関する基礎データが少なく、まずは現状把握を目的として事業所内保育所対象の質問紙調査を予定しています。進捗が遅いのですが、事業所内保育所の保育士さんに災害への備えについてヒアリングをしたり、質問紙案にご意見をいただいて実施に向けて準備を行っています。

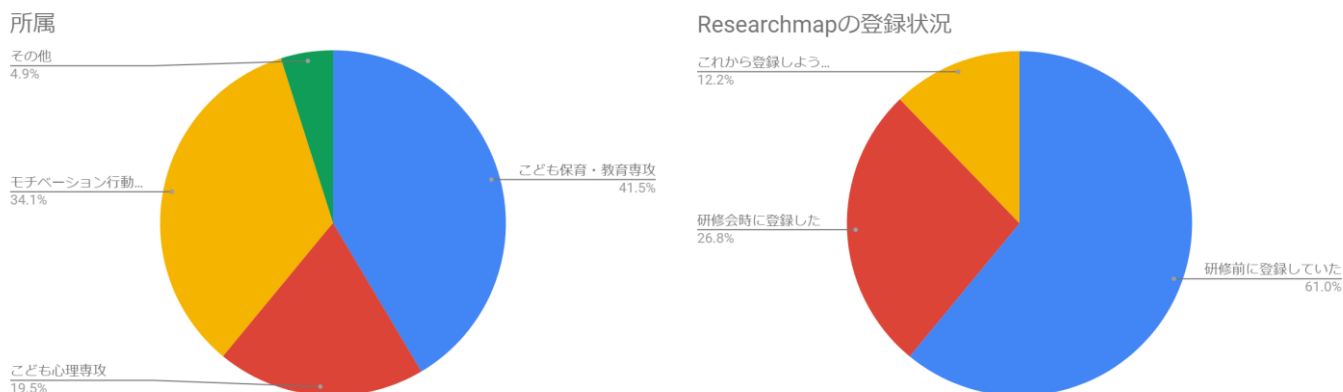
Q3 今後の展望や成果発表計画などについてお教えてください。

質問紙調査やヒアリング調査をもとに園が通常の運営にもどるまでどのように対応するべきか、応急保育のモデルを作って保育所や保育士さんに成果をお返ししたいと思っています。

令和元年度 研究推進研修会報告

7月10日(水)、令和元年(2019)度研究推進研修会が開催されました。今年度は「リサーチマップの入力について」をテーマに、大橋智講師にご講演いただき、活発な質疑応答がなされました。

以下に、研修会後のアンケート結果を掲載します。回答者の所属とResearchmapの登録状況をグラフで示し、続いて、本学教員がどのようにResearchmapを活用してきたかについての質問に対する回答結果の一部を示します。



これまでのResearchmapの活用について教えてください。どのように活用していましたか。具体的に教えてください。

先行研究の論文執筆者の所属や業績を参照していた。また、自分の業績の履歴を残すために活用していた。

年度末に更新しています。自分が使うのはリサーチゲートの方なので、こちらの活用は特に考えていません。

他の研究者の動向を知るときに使っています。例：研究履歴、今現在何を研究しているのか、どの先生と繋がっているのか。

研究分野が近い方の情報収集。本日の研修会、ありがとうございました。参加させて頂き、勉強になりました。

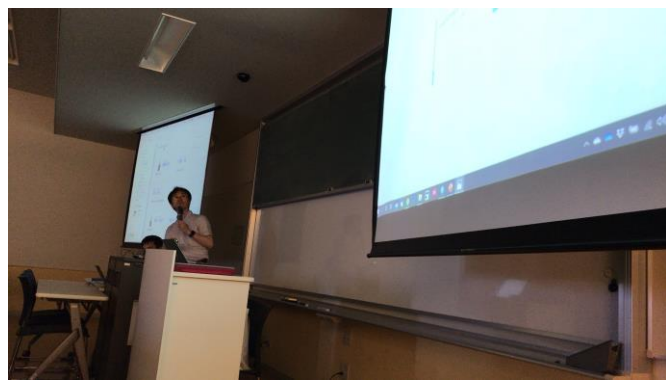
研究業活動・業績のリストを公開する目的として使用している。

昨年度、科研費を応募する際に、友人(研究代表者)からResearchmapの記入を求められて、更新しました。まだ不十分なので、これからまめに更新していきたいと思います。

以前科研費の採択に関して、入力が必要であるということを知り、その時に入力しました。

研究者検索

Facebookなどを行っていないので、他人に自己紹介する際リンクをお送りしたりします。



編集後記

今年度の研究推進委員会は、小林久美委員長を筆頭に、川原正人委員、所澤潤委員、山崎善弘委員兼委員長代行の4人から構成されています。どうぞよろしくお願ひいたします。「研究推進ニュースレター」最新号は編集担当が中心となりつつも、委員全員で力を合わせお届けするに至りました。ご味読のほどよろしくお願ひいたします。

編集担当 所澤潤、山崎善弘